



# 神戸市混声合唱団 リガ市派遣報告

ラトヴィア「歌と踊りの祭典」に出演！

平成25年7月2日～9日

神戸市混声合唱団25名（指揮：松原千振）が、合唱の国ラトヴィアの首都リガ市からの招聘を受け、平成25年7月2日～9日にリガ市を訪問しました。ユネスコ世界無形遺産にも登録されている5年に一度の「歌と踊りの祭典」への出演のほか、姉妹合唱団であるリガ室内合唱団「アヴェ・ソル」とのジョイント・コンサートを行いました。

## 「歌と踊りの祭典」とは・・・

約140年の歴史を持ち、ユネスコ世界無形遺産にも登録されているラトヴィアを挙げての文化イベント。5年に一度開催され、1週間にわたって各地で歌と踊りの祭典が繰り広げられる。

祭典の締めくくりであるグランド・フィナーレ・コンサートでは、巨大な野外ステージに、コンクールを勝ち抜いた合唱団や外国から選抜された音楽家約15,000人が参加し、3万人を超える聴衆が集まる。



## 「アヴェ・ソル」との ジョイント・コンサート 〈聖ペテロ教会〉

神戸市混声合唱団は、世界的に有名なリガ室内合唱団「アヴェ・ソル」と、平成22年5月より姉妹合唱団として協定を締結しています。ジョイント・コンサートでは、お互いの国の曲を披露するとともに合同でも演奏し、スタンディングオベーションで幕を閉じました。



## 「歌と踊りの祭典」 “パレード”

浴衣でパレードに参加。日本からの唯一のパレード参加で、沿道からたくさんの声援をいただきました。



アヴェ・ソル芸術監督兼指揮者のウルディス・ココース氏とともに現地のテレビ局の取材も受けました。



パレードの終了地点では歌の交流も。ラトヴィアの方々に日本の歌「赤とんぼ」を披露。



### 「歌と踊りの祭典」

#### “グランド・フィナーレ・コンサート”

約 15,000 人が歌う、信じられない規模の野外コンサートです。この 5 年に一度の世界的な合唱祭に神戸市混声合唱団が出演しました。



### ～リガ市への派遣・ラトヴィア「歌と踊りの祭典」に参加して～



今回、団員それぞれが自分のできる限りの力を発揮し、アヴェ・ソルと対等に向き合ってジョイント・コンサートで演奏できたと感じました。

また、「歌と踊りの祭典」では、15,000 人もの合唱であるにもかかわらず、乱れることなく演奏する姿に、文化として合唱が根付いていること、そしてその合唱をまとめあげる指揮者に対しては、国民が尊敬の念を持っていることを認識しました。

ラトヴィア民族として心を団結するための手段としての合唱、国をも動かす力を持つ音楽。日本で生活していると、「音楽は無くてはならないもの、ではない」と感じるがありますが、今回の派遣によって、音楽の持つ大きな力や可能性を改めて体感することができました。

この経験を糧に、音楽そして合唱のすばらしさをもっと伝えていきたい、そのためにもさらに努力していきたいと、決意を新たにしているところです。

(ソプラノ 老田裕子)

3 年前のリガ市への派遣に引き続き、今回も参加させていただきました。前回は、アヴェ・ソル合唱団のレベルの高い演奏を目の当たりにし、大きな課題を得て帰国しました。

ですが、この 3 年の間に、アヴェ・ソルの指揮者であるコカース氏が 2 度にわたり私たちの定期演奏会の指揮をし、その度に膨大な無伴奏の曲を取り上げ、演奏する機会を得ました。また、数々の指揮者との共演により、団員に無伴奏の曲も演奏する力がかなり身に付きました。



駐ラトヴィア日本大使の公邸に招待されるなど、神戸市とリガ市の姉妹都市交流の一端を担うこともできました。

